



令和5年11月20日

蒲刈中学校だより

発行：呉市立蒲刈中学校
文責：校長 柿林 浩彦

第33号

「主体的・対話的で深い学び」を目指しています ～本間先生が研究授業を行いました～

蒲刈中学校では、授業改善を推進する手立ての1つとして、年間を通して先生方の研究授業を計画しています。10月3日（火）には、東京大学 植阪 友理 准教授、広島大学 深谷 達史 准教授に来校していただき、上田 真梨子 先生（新規採用3年目）が研究授業を行いました。（研究授業は素晴らしかったです。）

11月17日（金）は、本間 伸一 先生（新規採用1年目）が研究授業を行いました。学校では、授業で学んだことが実際の生活や社会に結び付いていたり、役に立っていたりすることを実感することで、子どもたちの学習に対する意欲を更に向上させ、確かな学力を身に付けさせることを目指しています。

今回の本間先生の研究授業は、第1学年「比例と反比例」の単元で行いました。お店の前の行列を見たとき、待ち時間を予想するには何が分かればよいのかを考えることから始まり、比例の関係に気づき、比例を利用するように進めていきました。

ただし、比例の関係式を利用して求めるだけでは、単に比例式の使い方を伝達したことにしかなりません。本間先生は、生徒の状況を把握しながら上手に発問を工夫し、子どもたちに気付かせ、自分の考えを持たせるようにされました。更に大切なことは、グループで話し合うことによって、自分の考えと同じところや違うところに着目させ、自分の考えを広めたり深めたりしようとしていたことです。

教員は1時間の授業をどのように進めるのかを常に考えています。ましてや研究授業となれば、学習指導案の作成に多くの時間を費やして授業をします。今回も夏休みから準備を行いました。研究協議会では良い点と改善点など様々な意見をいただきました。



授業の進め方は無限大ですから、最高に良い授業は存在しません。ですから、常に工夫を重ねながらより良い授業を目指すことで、指導力を向上させることが重要です。

また、本間先生は特に「板書」にこだわっており、「板書」を見ると1時間の授業で何を学んだことを振り返ることができることを目指しており、また、毎時間の「板書」を撮影し、ロイロノートで生徒の皆さんに送付しています。このことは、生徒の皆さんにとって「分かる・できる」授業に大きくつながります。

本間先生や上田先生のように若い先生方も高い授業力を身に付けようとしていることに、頼もしさを感じます。



スマートフォンやタブレットのフィルタリングを確認してください。（保護者の皆様へのお願い）

GIGAスクール構想実現のため、呉市はタブレット（iPad）を児童生徒へ貸与しています。本校では、タブレットを正しく活用するため、日頃から指導するとともに、点検などを実施しています。しかしながら、他校において、生徒が意図的にフィルタリングを解除することによって、YouTubeやSNS等を制限無く閲覧しているなどという事案が起こり、大きな問題となっています。

呉市は、タブレット（iPad）を学習以外の目的で使用するのを防いだり、悪質なサイトによるトラブルを回避したりするためにフィルタリングを導入しています。

学校で使用するタブレット（iPad）だけでなく、ご家庭で使用するスマートフォンやタブレットなども、フィルタリングは子どもたちを守るために必要です。解除した状態でスマートフォンやタブレットを使用することは、予期せぬトラブルに巻き込まれることにつながり、場合によっては取り返しの付かないことになります。

学校においては貸与されているタブレット（iPad）のフィルタリングが正しく機能しているかを点検します。ご家庭で使用しているスマートフォン及びタブレットのフィルタリングの点検もよろしくお願いいたします。

